

(参考) 畜産分野の方法論に基づくJ-クレジットの取組事例

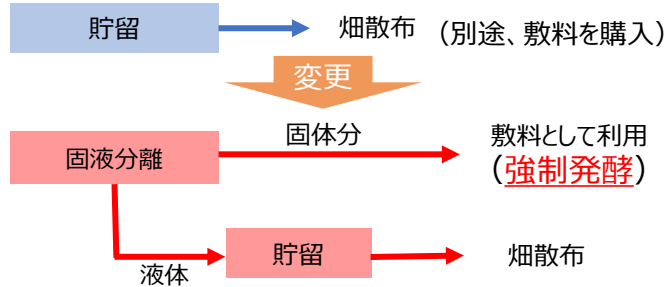
通常型

: 1つの工場・事業所等における削減活動を1つのプロジェクトとして登録する形態

家畜排せつ物管理方法の変更

(株) ファームノートデーリプラットフォーム (令和4年9月登録)

糞・尿 (スラリー)



家畜排せつ物 (固体分) の処理方法を「貯留」から「強制発酵」に変更することで、メタン排出量を削減

プログラム型

: 複数の削減活動を取りまとめ、一括でクレジットを創出する形態

牛・豚・ブロイラーへのアミノ酸バランス改善飼料の給餌

(株) 味の素 (令和5年3月登録)



乳用牛にアミノ酸バランス改善飼料を給餌することにより、排せつ物管理からの一酸化二窒素排出量を抑制

■ スラリーの固液分離機



■ 分離した固体分を強制発酵し敷料として利用

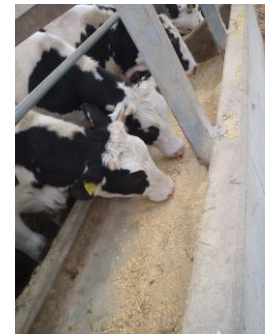


(出典) ファームノートデーリプラットフォームHP

■ AjiPro®-L 乳牛用リジン製剤



AjiPro®-L 粒子
直径約 2~3mm



(出典) 味の素HP

畜産業や畜産物に対する国民の理解醸成

畜産業や畜産物に対する国民理解の醸成

- 生産コストが上昇する中、国産の畜産物が引き続き消費者に選択され、持続的な畜産物生産が可能となるよう、畜産業の意義や生産者が行う努力等を伝え、国民理解を得ていく必要。

我が国の畜産業の意義

- 畜産は、**畜産物の供給**のみならず、
 - **人が食用利用できない牧草等による食料の生産**
 - 飼料、家畜、堆肥という農業における**資源循環の形成**
 - 雇用等を通じた**農村の維持・活性化**などに貢献する**重要な産業**

持続的な畜産物生産に向けた努力

- GHG排出削減に向けた取組の推進
- 耕種農家のニーズにあった**良質堆肥**の生産や堆肥の広域流通の拡大
- **国産飼料の生産・利用**及び飼料の適切な調達の推進
- 有機飼料の給与やAWに配慮した飼養管理を行う**有機畜産の取組の推奨**



出典：タカシ乳業HP



畜産物の価格形成に向けた課題

- 為替レートの円安基調やウクライナ情勢の影響により、**輸入飼料価格が高止まり**するなど、**生産コストが増大しても価格に反映しづらい**
- 生産コストが価格に反映できても、**買控えにより消費量が減少する可能性**

持続的な畜産物生産に向けて

＜農林水産省で行っている情報発信＞

情報発信

生産・加工・流通・消費の各段階に向け、畜産業における意義や生産現場での努力、コスト上昇等の課題等を**情報発信**

理解醸成

次世代を担う若年層なども含めた食料システムの関係者の**理解醸成**を一層推進

適正価格形成のための情報プラットフォーム

国産の牛乳、お肉、卵を食べて まもろう
あなたの選択が、日本の畜産の未来を支えます。

肉用牛 乳用牛 豚 肉用鶏 採卵鶏 飼料 その他

畜種ごとに、飼料コストや飼養戸数など、生産の現状を紹介

フェアでいい値を、考える。

米や畜産物など様々な食品について、生産者の生の声や、アニメを用いて紹介

次期酪肉近に向けた論点



担い手の確保、
技術・経営の指導

担い手の確保のため、就農への支援、省力化の推進、外部支援組織の強化を総合的に支援する必要。また、担い手の定着や経営改善のため、自治体や農業組織によるICTや獣医組織を活用したデータに基づく指導を推奨していく必要があるのではないか。



労働力不足

スマート農業技術活用促進法の施行も踏まえ、生産現場での省力化機器の導入の推進が必要ではないか。また、外国人材活用に向け、サポート体制等の充実が重要。外部支援組織の維持・強化に向け、運営の安定化や人材の確保・育成・定着が課題。



家畜防疫等

海外からの悪性伝染病の侵入防止のため、水際対策の強化、相手国での周知等重層的な対応が必要ではないか。また、伝染病の発生は農家の経営に大きな影響を与えるものであることから、発生予防に焦点をおいた取組が重要ではないか。



薬剤耐性

抗菌薬の使い過ぎなどにより薬剤耐性菌が増加すると、人や動物の治療が困難となり、畜産物の生産に影響を及ぼす可能性があることから、抗菌薬の使用量削減などの薬剤耐性対策の推進が必要ではないか。



アニマルウェルフェア

生産現場における指針の取組状況の把握のための調査を実施。その結果を踏まえ、将来的に「実施が推奨される事項」の目標達成年を設定するなど、生産現場における指針の普及・定着を図る必要があるのではないか。



環境負荷低減

国際的な動きや消費者ニーズに対応するため、「みどり認定」、「J-クレジット制度」及び環境負荷低減の取組の「見える化」を推進し、生産及び消費の両面からGHG排出削減を推進する必要があるのではないか。



畜産業等に対する
国民の理解醸成

生産コストが上昇する中、国産の畜産物が引き続き消費者に選択され、持続的な畜産物生産が可能となるよう、畜産業の意義や生産者が行う努力等を伝え、国民理解を得ていく必要があるのではないか。